大豆ワンポイントアドバイス（No.4）

令和７年７月２２日
JA山口県長門統括本部
長門農林水産事務所農業部

５月播種のサチユタカが開花し始めています。
開花後は中耕や大豆バサグラン等の広葉除草剤散布ができません。

1　病害虫防除

病害虫発生予報（7月16日　山口県病害虫防除所発表）
ハスモンヨトウ　平年並　　吸実性カメムシ類　多

○吸実性カメムシ類がほ場内でかなり多く確認されています。
○１回目の防除は、開花期後３０日頃に紫斑病・褐色輪紋病とカメムシ防除を合わせて行いましょう。
※開花期＝全体の４～５割の株に開花を見た日
○カメムシ防除のために、最も重要な防除は開花期後４５～５０日頃の２回目です。早くなりすぎないよう適期に防除してください。散布後にもカメムシが発生する場合は、追加防除（開花期後 60 日頃）を検討してください。

＜基幹防除の例＞

時期	１回目	２回目
	開花期後３０日	開花期後４５～５０日
防除薬剤	褐色輪紋病・紫斑病：ニマイバー水和剤 ※ニマイバー水和剤とトレボン乳剤は混用しないこと カメムシ類他：ダントツ剤等 マメシンクイガ：プレバソン剤（日置・油谷のサチユタカ）	カメムシ類：スタークル剤　等 マメシンクイガ：アディオン剤（日置・油谷のサチユタカ）

＜補完防除の例＞
カメムシ類多発時：トレボン剤　　等
ハスモンヨトウ・ウワバ類多発時：プレバソン剤　等
※ハスモンヨトウの防除判断は、食害による白変葉が１アールあたり５か所以上
（幼虫が大きくなると農薬の効果が劣ります）


ハスモンヨトウによる食害（白変葉）

2　干ばつ対策

○開花期～１か月の間、干ばつに合うと花や莢が落ち、減収します。
また、水分ストレスによる青立ち株が増加します。
５日間以上降雨がない場合、水利上可能な限り、夕方～明け方に畝間潅水を行いましょう。
○潅水中は暗渠排水口や排水口を閉め、ほ場に水が行きわたったら速やかに排水口を開いて排水してください。